

かがやき ニュース

いよいよ南信に 「みんなの家 下條」OPEN!



11月16日OPENの「みんなの家 下條」の吹き抜けに、コスモスの花の貼り絵があります。南信地域センターで行った介護初任者研修の受講生が、ぜひ飾ってほしいと作ってくれました。コスモスは下條村の村花です。村内至る所で見ることができます。高齢協では南信地域で最初の介護事業所として、この花のように広く知れ渡り、多くの人に愛される、そんな「みんなの家」にしたいと思います。みなさん、応援をお願いします。

本部・北信地域センター

長野県長野市南長池 761-3
(本部) TEL 026-263-2386
(北信) TEL 026-217-3601

中信地域センター

松本市本庄 2-3-18
TEL 0263-31-8200

東信地域センター

佐久市下越 612-1
TEL 0267-78-5070

南信地域センター

飯田市知久町 4丁目 1203-2
高田ビル 2階
TEL 0265-23-1109

だれでも気軽に 寄ってもらえる場所に

11月16日、長野県高齢者生活協同組合として南信地区では初の小規模多機能型居宅介護事業所「みんなの家下條」が開所します。

これまで南信では、南信地域センターで介護初任者研修や、介護資格を取得してから時間が経過している方の為に介護復職支援講座等を行ってきました。講座を受けられた方の中から「せっかく学んだのだから、働きたい!」との声もあり、南信で施設をつくる場所を探してきました。幸い飯田市の隣の下條村に、元パン工場の物件を見つけ、外観はそのままに内部をリフォームして開所することになりました。

下條村は子供の出生率が長野県下第1位です。子供の医療費を高校生まで無料にする等、福祉へとても力を入れている村です。村内に介護の事業所ができると村としてもうれしいと、下條村より認可をいただきました。

「みんなの家 下條」という名前は、だれでも気軽に寄ってもらえる場所としてつけました。利用

者さんだけでなくご家族の方やご近所の方、どんな方でも気軽に立ち寄り、お茶でも飲みながらくつろいでいただける場所。地域と共に利用者さんが生活し、地元の方々と一緒に住み慣れた下條村で生きていく場所。そんな空間を作っていく事をみんなの家下條は目指していききたいと思います。

10月3・4・5日に見学会を行いました。日中フリータイム、いつでも寄っていただける形にしました。講座の修了生やご近所の方のべ50名ほどの方に見学していただきました。そんな中でご近所の70代の女性の方々より、「みんなでお茶を飲みながら、お話する場所が欲しかった」「こういう場所ならご飯を作りに来てもいい」等のご意見をいただきました。事業所としては大変ありがたく、目指す方向に近づけると実感しました。

独居老人、孤独死、老々介護などという言葉が世の中に溢れています。「独りぼっちにならない、しない」を理念とする高齢協です。何もなくても、来て、皆とお話して、家に帰ってからも「楽しかった。また行こうかな」と思っていただけ、そんな『家』になれたらと思います。
(伊東泰成)

みんなの家 下條 職員紹介



介護職
百瀬 拓郎



看護師
中村 三恵子



ケアマネジャー
三宅 みち子



管理者・介護職
伊東 泰成



有償ボランティア
酒井 和美



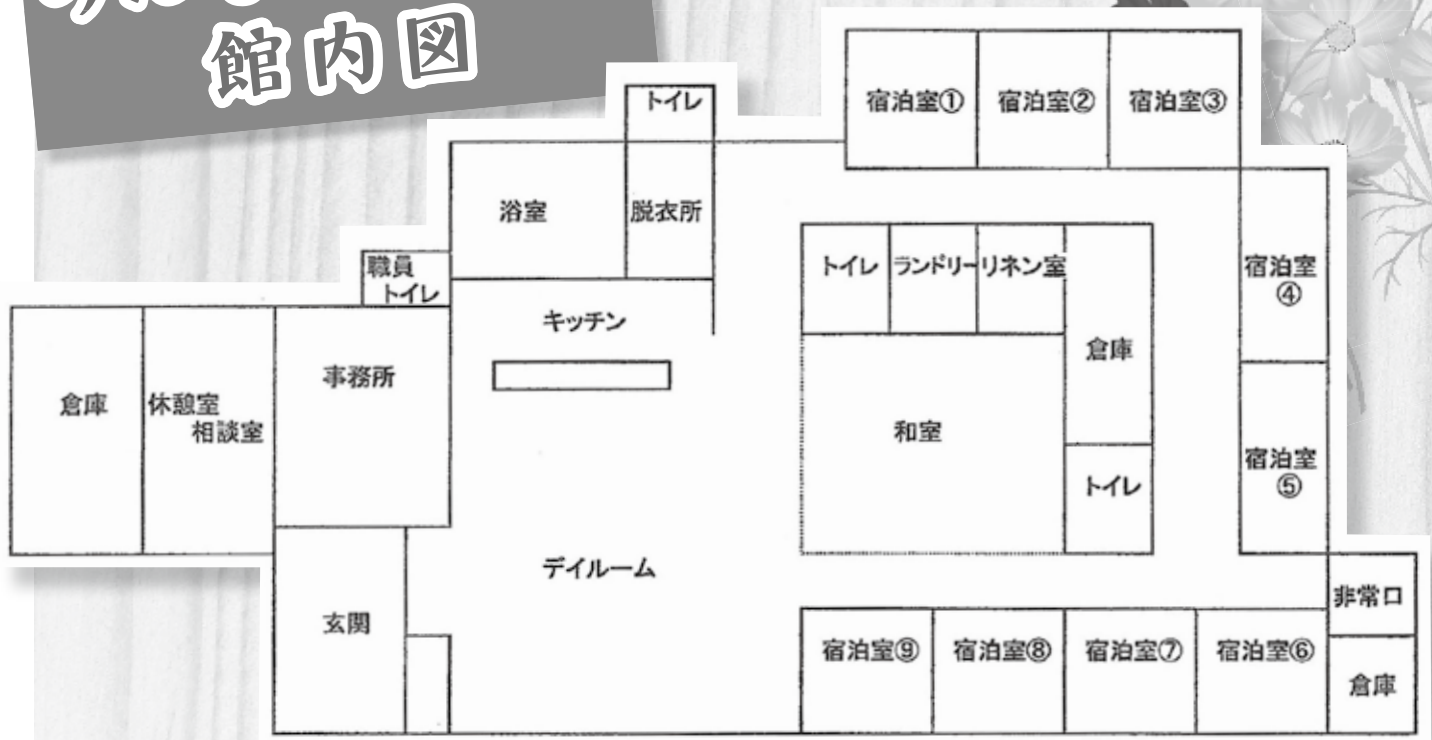
介護職
宮島 春華



介護職
村澤 呼季



みんなの家 下條 館内図



第3回理事会報告 (2013年10月5日開催)

- 上田市小牧エンゼルパーク内に建設した「協同墓地」については、管理運営のすべてを生前契約者と遺族の会である「やすらぎ友の会」が行います。お預かりした使用料を永年にわたり供養に充てるには高齢者生協の事業会計にはなじまないと判断しました。運営管理に関わる事務は高齢者生協が担う予定です。
- 東信地域センターの「米ちゃん弁当」は食数増に伴い手狭になったことと衛生面の問題から、センター事務所南側の倉庫部分を改修して移転することになりました。
- 社会保障制度が大きく変わろうとしています。社会保

障と生活実態についてのアンケート調査を行います。ご協力ください。

- 2014年度からの第4次3か年計画の策定に向けて方針を確認しました。

- 10月末の組合員数 3,168名(北信:1,963名 中信:655名 東信:399名 南信:141名 その他:10名)

- 9月までの事業高

長野県高齢者生活協同組合	240,716,932円
NPO法人かがやき	51,992,479円

小規模多機能

かがやきの家：笹部

みんなで歌った敬老会

「輝いた一日」

9月13日、地域のハーモニカクラブの皆さん5名を招いて、「かがやきの家の敬老会」を行い、大小様々なハーモニカの演奏に合わせて、みんなで歌いました。

昭和初期の歌を中心に、曲とその背景の説明を聞きながら、里の秋・月の砂漠・旅の夜風と歌い進み、金色夜叉の歌の時には、歌を歌う方が貫一の姿で現れると、こらえきれずに、目頭をハンカチで抑えていた利用者さんも…。苦しかった時に歌った思い出の歌、戦前、戦中、戦後の辛い時代を乗り越えてきたお年寄りにとって、こみあげるものがあつたのでしょうか。最後に、ふるさとを歌い終了。

日頃は、見られない利用者さん達の表情に、娯楽が溢れている今と違い一つ一つの歌に想いを重ねて暮らしてきたのだなと思いました。

笹部から、お持ち帰り用の紅白饅頭と手作り感謝状を送りました。

また来年も元気で歌いましう！



(高瀬制二)



仲間増やし

(9月～11月)

東信

夢膨らませ、大きな課題に挑戦

9月から始まった月間ですが、12日の組合員ふれあい会では月間を取り組むにあたっての学習会を行いました。今期の東信センターは、「四季のベンチ」の建設・立ち上げと「米ちゃん弁当」の改修移転と多くの資金が必要です。また、組合員の協力なしには何事も進みません。幸いにして佐久市に拠点ができたとによりクラブ活動に地域の方が参加していただき、かご作りなどの新たなお楽しみ会も始まっています。「高齢協は元気になるよ」「高齢協は楽しくなさ」「四季のベンチや米ちゃん」の宣伝もしながら、これから地域組合員の訪問活動に取り組みます。地域とのかかわり、そして人と人との繋がりが本当に大切だと感じています。

10月末現在で組合員29名の増加、残目標55名です。目標に向かって頑張ります。

(東信地域センター長 鈴木友子)

北信

より高い峰を目指して

北信地域センターは、2,100名の組織を目指して6つのブロックごとに目標を立て、組合員・総代の皆さんが知恵と力を出し合っ

て取り組んでいます。○東北憩いの家では、施設の利用者と仲良くなり、加入を個別に勧める。

○NPO法人ワーカーズコープがやぎの北信は、庭木の剪定の依頼者が加入。仕事を通じて拡がる等々の教訓の反面、組合に入ってもメリットがない。目標を立てられないなどの困難について、話し合いがされています。

協同組合は「組合員(数)は力なり」です。より大きな組織になることによつて事業・運動の発展ができます。「1人は万人のために、万人は1人のために」です。そして目標を立てること、自然成長型の組織から目的・意識的な組織に成長発展し、より高い水準の事業・運動の発展につながります。

残された月間を、みんなで力を合わせて取り組みましょう。

10月末で59名の増加、残目標は191名になりました。

(北信地域センター長 小沢房生)

中信

組合の仲間増やしに積極参加を!

中信地域センターでは1人でも多くの仲間を迎い入れようと次のように意志統一し、仲間づくりに取り組んでいます。

①地域の中で共感が広がり支持される大きな組合をつくることは、組合員や地域の要求を前進させ、仕事や生活、権利を守る活動の基本となる。

②組合員の健康上の理由、高齢化、組合加入のメリットなどの問題で、組合を辞める人がある中、仲間を増やす努力をしなければ組合員は減少する。

③年金支給減額、アベノミクスによる家計費負担増、来春の消費税増税、TPPへの参加、介護保険制度の改悪等々の施策は、特に高齢者や弱者の生活を苦しめるものになります。厳しさを増す情勢をしっかりと学び、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、私たちが主体的に仲間づくりに取り組むことが重要。

地域へ訪問するなどの取り組みを強めますが、職員数は少数です。ぜひ640余名の組合員さんのご参加と、対象者紹介をお願い致します。

10月末22名の増加、残目標42名。

(中信地域センター長 風間隆治)

南信

長野高齢協って何者?

今月間中の最重点課題は「みんなの家下條」の開設です。高齢協のグループもなく、知り合いも居ない地域での事業所開設。とにかく高齢協を、みんなの家下條を地域の方々に知ってもらうことが第一です。「高齢協? 聞いたことも、見たこともないな。農協は知ってるが。コープながのと同じ?」などなど。予想通りの反応が返ってきます。下條村の方により多くお会いし、説明し、事業所を見て頂く取り組みを重点に行っています。村内の区長さん、事業所のある組長さん、民生委員さんへの戸別訪問、関係機関への訪問、地区役員会での説明を行いました。施設見学会は10月3日〜7日で行い36名の地域の方々が見学に見えました。村会議員さん、民生委員さんの見学を合わせるとすでに75名の方々に見学に来ていただきました。これまでに100名を超える方々とお話しましたが、まだまだです。関心の高い今のうちにより多くの方に知って頂く活動をこれからも続けます。

10月末で4名の増加、残目標は15名。

(南信地域センター長 新井厚美)

想 い

「やってきた協同の時代」



このタイトルは、1997年長野高齢協が発足して翌年に発刊した県非営利・協同の懇談会（以下協同懇）のパンフレットの見出しです。

昨年は国際協同組合年として、県協同組合連絡会がJAや県生協連等に労協ながのが新たに加わって、協同組合セクターが拡がりました。

長野高齢協の原点は、26年前の1987年2月、協同懇が長野医療生協、長野生協と県民生協（現・コープながの）に長野中高年雇用福祉事業団（現・労協ながの）の4団体で開かれたことにあります。その時の感想は、協同組合がタテ社会から地域でヨコの連絡を初めて持つことの素晴らしさでした。連帯と協同によって、住みよい街づくりに貢献することを確認しました。

仕事おこし、地域づくりなどについて発展方向を考えるために、地域を見据えて「考えてみよう長野県での協同を」第1回協同集会が開かれました。そして、第3回協同集会は、小諸・北佐久地方

の高齢者福祉の実践から学び、県高齢協構想を確認し合いました。

こうしてつくられた高齢協は、人々がとりわけ弱者、高齢者が暮らしにくい時代に、揺りかごから墓場まで協同して、豊かな人生を全うするための事業・運動に取り組んで17年になります。

介護保険による介護を始め、保育・生活総合支援、配食、健康づくり、葬送と協同墓地まで、人生丸ごと助け合い、支え合って長生きしてよかったと言える地域が、不十分でも長野市はじめ全県下に拡がりつつあります。

課題は、県協同組合連絡会が、役員段階から地域の協同組合セクターに発展すること。ここまできた高齢協が全県エリアに多くの県民が、「ひとりぼっち、寝たきりにならないしなない」ために仕事おこし、地域づくりに努め、事業・運動・組織を確実に進めることです。『協同で拓く信州を目指して。』

（小沢）

協同組合フェスティバル

力を合わせて助け合い

長野県協同組合フェスティバルが10月6日（日）安曇野サンモリッツで盛大に行われました。当組合からは、小沢副理事長・豊嶋理事・西片理事・根本理事が参加し、長野高齢協のPRに努めました。当日は、素晴らしいアルプス晴れに恵まれ、残暑を想わせる暑さになりました。

長野県内の協同組合・行政・諸団体による多彩なイベントが盛り沢山に、「食の安全と安心のために」「力を合わせて助け合い」「心豊かなくらしのために」をスローガンに各組合工夫を凝らして行われました。

特に協同組合には、さまざまな種類があり、農林水産業・購買・金融・共済・雇用創出・旅行・住宅・福祉・医療など私たちの暮らしの中で、あらゆる分野において事業を営み日々の生活を支えている身近な存在です。民主主義を基礎とした事業運営や活動を通じて、経済的・社会的な側面で、人々の生活の向上とその解決を大きく助ける役割を担っています。

こうした取り組みの様子が、来場者約2500名の方々にご理解いただけたと思います。なお、高齢協の仲間のみなさんの来場がほとんどなかったのが、さみしい限りです。みんなで少しの力を出し合い、大きな運動にして行きましょう。

（理事 根本健二）



ブースにて高齢協を紹介しています

ピカピカのあなたをつくる 「いこいの家」ようこそ

その②

「湯」につかり体を癒したい人、
一日をゆつくりと過ごしたい人、
特技を披露したい人、いこいの家
に是非お越しください！元氣にな
れまうす！

前回に引き続き、「長野市老人憩
の家(通称…いこいの家)」の紹介
です。60歳以上の市民誰でも利用
できる公共の入浴型癒しの施設。
現在、その廃止が一部で検討され
ています。それは、利用者数の減
少と「古い」施設のため。いこいの
家は、その地域にとって大切に、
今まで、利用され続けてきた場
所です。もつともつと多くの方
に利用いただくために…、そし
て、個人も地域も「いつまでも元
気でいられるために」…。前回の
「東北・新橋・石川」に引き続き、
今回、残りの4か所のPRです。

大豆島いこいの家

(大豆島631111)

TEL 221-5600

周りを住宅に囲まれた、大豆島
上区公民館の隣に当施設はありま
す。「桜」「銀杏」などの樹木が葉を
茂らせた広い庭、駐車場と駐輪場、
そして住宅街とは思えないほど閑
静な場所です。

館内は100畳の大広間に静養
室が2部屋。そして床暖と冷暖
房、洋式水洗のトイレも完備です。
お風呂はもちろんおすすめ。広
い浴槽に、「うたせ湯」は何と言っ
ても自慢です。どうぞ皆様、当
施設にお越しいただき一日ゆっ
くりお過ごしください。

若槻いこいの家

(田中145712)

TEL 295-2828



若槻いこいの家のお風呂

三登山からの
湧水を引き、沸か
したお湯につかる
お風呂は、利用い
ただく方からはと
ても好評です。春
は桜が咲き誇り、
ちようど今頃の秋
には木々の紅葉が
美しく、四季が楽

しめます。来館される皆様をス
タッフの素敵な笑顔で御出迎えし
て、気持ちよくお過ごしただけ
るよう心がけています。旧北国街
道を牟礼方面に向かう途中にあり
ます。皆様のお越しをスタッフ一
同お待ちしております！

茂菅いこいの家

(小鍋6011)

TEL 234-5466

日本百景の一つ裾花峡の入り口
の自然豊かな場所
にあります。春は、
頼朝山の山桜。夏
は裾花川のさわや
かな川風。錦秋の
葛山。四季折々の
風情を楽しめます。
自慢の風呂は、源
泉100パーセン
トの別名「杖忘れの
湯」。「いつまでも元
気でいられるために」年間を通じて
カラオケ会、古布で〇〇づくりな
どの各種モノづくり講座、春秋の
2大祭りのほか、茂菅保育園児と
一緒にカルタ会、しめ縄作りも毎
年取り組んでいます。鬼無里線「不
動口」下車徒歩3分、「茂菅いこい
の家」でお待ちしております。



茂菅いこいの家ロビー

いこいの家は、毎日入れ替わり
の新しいお風呂で、皆様をお待ち
しています。ただいま、「お出かけ
パスポート」(市バスで提示)で来
館された方には、ささやかな粗品
をプレゼントしています。
いらつしやい。近くにこない
いとこ、ありますよ！
(佐藤潤・各所長)

東長野いこいの家

(吉田519126)

TEL 244-6721

長野運動公園から北方向、1
つ目の信号を右折すると、つきあ
たりにある緑屋根が当施設。隣の
介護サービスセンターが年中無休
で仕事しているためか、当施設も
年中稼働しているように見えます
が、「日曜・祭日」は休館日。特徴
は、入浴日は月曜と木曜だけで、
あとは講座・サークル活動(現在
約300名の会員)が活発に行わ
れている、「いこいの家」と「かが
やきひろば」のいいとこどりの施
設だつたりします。白髪頭のおじ
さん(所長)と、大和撫子4人の
明るい笑顔で皆さんをお迎えしま
す。どうぞお気軽にお越しくださ
い。心よりお待ちしております。

満面の笑みを子どもたちと！

”翼をください”のハーモニ―には思わず目頭が熱くなりました。

10月17日、今年第2回目の松本市源池小学校・ボランティア部との交流会が開かれました。担当の先生から「子どもたちが楽しみにしているの」とご連絡をいただいて、宅老所かがやき北小松のメンバーも心待ちにしていました。

3年生・4年生の総勢15名が3班に分かれ、ババ抜き（失礼！）・カルタ・折り紙を利用者さんと一緒に楽しみました。その時の利用者さんのとびつきの笑顔が印象に残っています。交流会の最後に、子どもたち全員が「翼をください」を合唱してくださり、心にしました。

お返しとして、宅老所の利用者・スタッフも「われらかがやき仲間たち」を振り付きで歌って披露しま

した。そして、宅老所のパンフレットを子どもたちや先生方にお渡しし、ささやかなPRも行いました。とても有意義なひとときでした。

（豊嶋春美）

生きる源は“食”から

健康でいるために皆さんは、日頃からどのようなことに気をつけていますか？

いきいき元気づくり講座では、9月に「食」について学び、10月には初めての取り組みとして参加者全員による「調理実習」を開催しました。

魚は焼くのではなく、蒸す（白身魚でも良いそうです）。普段とは違った調理方法！

家庭の台所では大ベテランの皆さん、手際よく皮むき、包丁をさばき、あつという間に料理ができていきます。その中で「長年の経験から調味料はいつも目分量で入っていたけれども、久しぶりに計量して料理を作った。」「ちよつとしたことはそんなに気にすることはないと思っていたけれど、基本に立ち返ることは大切だね。」など

の声が聞かれました。また、「食事は楽しく食べることが一番ですね」という感想が聞かれ、量でお腹を満腹にするより、気持ちで満腹にすることが大切だとも感じました。

（内田信幸）

講師の 浅井先生からのアドバイス

- 食べることは人にとって必須であり、自分の身体は自分で守るようにしましょう。
- おいしく食べて不必要な物は食わず、カロリーには十分に注意して、活動的な生活をするのが大切。
- ご飯は茶碗を小さくする。みそ汁はみそが適量でも具が少ないとしょっぱく感じるのて具を多めに入れる。
- 調理実習は、「調理をすること」が目的ではなく、調味料の使い方、健康でいるためのいろいろな調理方法を学ぶこと。



皆さんで楽しく調理実習

チェック！

気になる自分の体重や適切なエネルギー量を知りましょう。

1日の適切なエネルギー量は？

（適切なエネルギー量を知りましょう）

標準体重 × 生活活動強度（★） = _____ kcal

あなたの標準体重は？

（標準体重を知りましょう）

身長（メートルで表現）×身長×22
= _____ kg

たとえば、160cmの人は、
1.6×1.6×22=56.3kgとなります。

★生活活動強度は、次を目安に、ご自身がどれに該当するかお選び下さい。

- ①軽度の作業（デスクワークの人、買い物1時間程度）または主婦 25～30kcal
- ②中度の作業（買い物2時間程度、通勤がある人など）30～35 kcal
- ③重度の作業（肉体労働の人、スポーツクラブに通う人）35～kcal

たとえば、160cmの人で中度の作業を行っている方
56.3Kg×30Kcal=1,689kcal となります。

東信

佐久の熱い夏祭り！
地域の方々と一体となつて！！

去る8月31日(土)東信センターではひろば夏祭りを開催しました。

前日までの心配もよそに台風一過、絶好のお祭り日和で、地元の方々と組合員さんによる「夏まつり実行委員会」の準備の甲斐あつて、約200人の参加者で賑やかに実施できました。

野外広場のテントではトッカン、フランクフルトや地産の野菜・菜種油の販売、好評の本部からの炭火焼き鳥もすぐに売り切れ、今年新たに試みたビール・酒・ジュース・お茶などの飲み物コーナーや子供の遊び場コーナーも賑わいました。

舞台では近くの保育園の鼓笛隊によるバンドで勇ましく幕が開きました。付き添いのお母さん方のお陰で、来場のお客さんの層も若がり



オープニングでの保育園児による鼓笛隊演奏

ました。続いてフラダンスやハープ演奏・日本舞踊・民謡・腹話術・コーラスそして、何かが当たる「参加者くじ」もあり予定時間を越えるほででした。

作品展示では絵画・彫刻・絵手紙・俳句・習字・工芸品・人形や手作り衣服、保育園児による「家族の似顔絵」展示もいたしました。また、おもしろ倶楽部と地元の方々の協力による初のバザーも完売で、思いのほかの収入源となりました。

今回は、来年3月オープンの小規模多機能型居宅介護施設「四季のベンチ」の紹介として、パネル展示をしながらの血圧測定と介護・健康相談をしました。

JA佐久浅間、佐久病院、下越の商工会、民商など大勢のみなさんのお世話になり、昨年より地域の方々との密着度が増した祭りとなりました。

また、「米ちゃん弁当の調理員さん募集」の張り紙を入り口に張ったところ、なんと6人もの応募があり、大変なおまけつきの夏祭りになりました。

(浅沼しげじ・横山孝子)

南信

南信に高齢協を広げよう

小規模多機能型居宅介護事業所「みんなの家 下條」が11月16日にオープン控え、一般・修了生向けの内覧会を10月3・4・5日の3日間行いました。

施設職員の宣伝活動の甲斐もあり、地域の方々が近所やご友人と見学に来て下さり、施設のご案内をすると同時に地域での困り事など様々なお話を聞かせて頂くことが出来ました。実際のご利用相談や、施設の近くには保育園や学校があり、「高齢者だけでなく子供との関わりが増えれば、ここはほんとに名前の通りみんなの家だね！」と心温まる言葉をかけて下さる方々がいました。多くの講座修了生が施設のオープンを楽しみにしていた様で、久しぶりに元気な様子と合わせて近況報告など聞かせてくれました。話の中には「もつと南信に高齢協の名前を浸透させて欲しい！」などの声もあり、南信地域センターの今後の取り組みの励みとなりました。多くの方の協力もあり、とても和や

かな雰囲気での内覧会となりました。講座事業では、11月～1月までの委託訓練講座「みんなの介護実践科」や、同じく11月にスタートする毎週土曜日開講の「潜在的有資格者復帰支援講座 伊那会場」が開講します。潜在的有資格者復帰支援講座では県社協からの委託を受けて行っており、先に開催した飯田会場では有資格者講習が長野県で初めての試みという事で、新聞にも取り上げていただきました。県社協から優先して福祉の職場を紹介して頂き、講座事業にとつて大きな力となつていただいています。この様に皆さまのご協力や支えで繋がって行ける事に喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

(今田雅子)



内覧会に来て下さった地域の方をお見送り

人は変われる

小さな男の子が「やった！やった！」と腕を回しながら走ってくる。何か良いことがあったのだろうか。「かわい」とつぶやきながら頬が緩んでしまう。無邪気に体いっぱい喜びを表している。「うらやましいなあー」と思いながら遠い昔へ、私の子供のころに記憶が遡っていく。変な子だった私。他人と関わることが苦手でろくに挨拶もできない子だった。街で近所のおばさんに会っても、そつと母の後ろに隠れた。好きな遊びはラベル剥がし、流し台の前に座り込んで小さな指でひたすらラベルを剥がす。

そんな私が今、臆することなくコラムを書いている。人は変われるものだ。長い年月の間に何があったのだろう。否応なしに多くの人と出会い、失恋もした、失敗もあった、少しばかりの努力もした。人の親にもなった。「辛いとき、苦しいときに勇気を与え

てくれたのはなんだったのだろう」と思う。何気ない他人からの褒め言葉。そして、言葉に出さず見守ってくれていた父のまなざし……。誰もが大人になってもあの男の子のように元気でポジティブであってほしい、明るい笑顔でいてほしい。

私は十分に大人にはなつたけれど……。誰かを褒めているだろうか？勇気づけているだろうか？じつと見守るまなざしを持ち得ているであらうか？……と自問する。



放射能汚染20km圏内を体感して―「除染」作業は無駄なのか

9月29、30日に高齢協連合会主催の復興支援ツアーに参加する機会に恵まれました。初日の宿泊は女川町の復興民宿施設でした。

翌日は南相馬市の20km圏内に許可証を貰ったの視察でした。

合併前の元小高町長さんのご案内で荒廃した田畑と廃墟の家並みを視察しました。津波地区の瓦礫は片付けが済んでいましたが、放射能汚染地区では打ち上げられた漁船も放置されたままです。

20km圏内にも除染作業に入ることだが、私個人としては「除染」作業はほとんど無意味で、巨額な税金を使うことは疑問です。

被害者の皆様には残酷な話だが、除染作業などしないで、国が土地、建物等の資産を買い上げ、新天地での生活ができるよう金銭で補償した方が現実的かつ合理的だと思います。

どんなに丁寧に除染作業をしても、ゼロにはなりません。可能な限りの除染作業をしても、放射線量は半分に下がる程度とのことでした。マスコミは「除染」の本質を伝

えず、除染作業をすれば、安全な土地に戻るかのような「淡い期待」を国民に与え続けることが、「原発安全神話」に続く「放射能除染神話」になるのではありませんか。放射能の半減期は100年単位の時間の経過しかありません。人類は放射能と共存できません。子孫への責任として、即刻、核兵器も原発も廃絶を決断する事が、未来に対する責任の取り方の唯一の道であると思います。

原発を持ち上げた文化人・評論家達よ、罪滅ぼしに除染作業のボランティアに参加せよと言いたい。知らぬ顔することは許されません。(南信地域センター酒井和美)

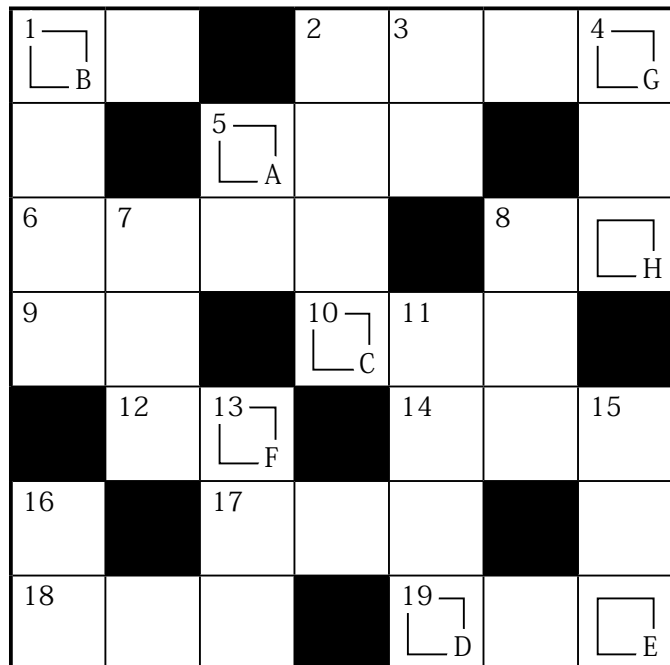


ブルーシートに包まれた汚染物

前号のクロスワード正解「ケイロウノヒ」でした。

読者コーナー

正解者：4名 当選者（3名）：飯田聖さん、上杉純一さん、田中寿万子さん
おめでとうございます。クオカード500円と万座温泉入浴券1枚をお送りします。



〈前号の答え合わせ〉

1 ツ	2 ク	3 ウ	4 エ	5 ノ
6 ー	7 ツ	8 ワ	9 モ	10 ノ
11 ト	12 ロ	13 ガ	14 レ	15 キ
16 ノ	17 ウ	18 ツ	19 シ	20 タ
21 カ	22 ク	23 ヨ	24 ケ	25 イ
26 バ	27 シ	28 エ	29 キ	30 チ
31 ク	32 マ	33 ド	34 ア	35 ゴ

〈タテのカギ〉

- ①山上や飛行機から広々と海のように見える雲。
- ②うなぎの料理
- ③テーブルのこと。
- ④ワープロなどの印字用のテープ
- ⑤地球が太陽を1周する時間。
- ⑦何かをする時の事情、〇〇〇
- ⑧南米、アンデス地帯で栄えた〇〇〇帝国。
- ⑪群雄〇〇〇〇の戦国時代
- ⑬魚釣りのエサにする環形動物。
- ⑮日本初の正確な日本全図を作成した江戸時代の地理学者〇〇〇忠敬。
- ⑯〇〇をひいたら玉子酒。

〈ヨコのカギ〉

- ①来年の干支。
- ②つくしの里のお弁当の「とろみ食」には
〇〇〇〇粉を使っているのだよ。
- ⑤金品をかけて勝負を争うこと。
- ⑥鋼、鎖などかけて回転させる車。
- ⑧ゴルフで後半の9ホールのこと。
- ⑨盤上で白い石と黒い石で戦います。
- ⑩無事に戻ってきました。
- ⑫続々と多く出てくる、〇〇の筍。
- ⑭人に言いつけられて用をたしに行くこと。
- ⑰病気が治ること、〇〇〇祝い。
- ⑱人のためを思う心。
- ⑲天気〇〇〇

応募方法

・ ヒントから□に文字を入れて、A～Hまでのアルファベットを順番に並べ替えて、言葉を完成させてください。応募いただいた正解者の中から抽選で3名の方にクオカード500円と万座温泉日進館の無料入浴券1枚をプレゼントします。

☆答え、氏名、住所、日常の出来事やニュースのご意見・感想などを記入して、郵便、FAX又はメールにてご応募ください。お待ちしております。

宛先：〒381-0024 長野県長野市南長池 761-3

長野県高齢者生活協同組合「クロスワード」係

FAX:026-263-2385 メール:info@nagano-koureikyo.jp

締切日:12月16日(月) 必着

ほほうみだより

「様々な出会いの中で」

長年ヘルパーを続けてきていろんな方との出会いがありました。つい最近ですが、末期の悪性腫瘍であと1ヶ月と宣告され、そしてご家族はご本人に告知をしないと決められました。また在宅で見るということで、デイサービス、訪問看護・訪問・ケアマネ・家族と連携を取りながらのケアを行ってきました。

日に日に痩せていく。悪態ついて困らせる。そして最後の時がいつ訪れるか不安の中で訪問させていただきました。最後まで自分らしさを失わず、頑固を押し通しながら安らかな日々を送られました。

ご家族の皆様からは感謝されましたが、もつとなにか出来たのではないかと考えさせられました。これからより良いケアを目指して頑張っていきたいと思います。

(かがやき福祉センター)長野

岩倉 洋子

全国の仲間が増えた！

「京都高齢者生活協同組合

くらじこープ」創立

10月20日(日) 京都高齢協が創立総会を迎えました。京都府から生協法人としての設立がなかなか認められず、有限会社やNPOなどの法人格を活用して事業・活動を2002年から行っていました。が、晴れて高齢者生活協同組合として新たな第一歩を踏み出しました。今回の創立実現には京都府の理解が得られたという要因もありますが、連合会や近隣の高齢者生協の力添え、京都高齢協の仲間の思いが大きかったと思います。

当日は、ビル・トッテン氏の記念講演があり、高協連の理事会が京都で開かれたこともあり、全国の高齢者生協の仲間も参加しました。組合員総数は427名です。総会では連合会への加入も含め、提出された議案はすべて可決されました。

連合会としては22番目の加入高齢者生協になったわけですが、仲間の力を得て、全国に高齢協の輪を広げていきたいと改めて感じました。

(鈴木友子)

読者からの投稿

皆さんから寄せられた投稿を「紹介」します。

○台風18号の影響で堤外に水が入ってしまった、りんごの木の下枝が水につかってしまいました。でも考え方で家まで入ってしまったりがなかったのので「まあ、良しとするか」と思い、毎日の畑仕事頑張っています。

(Tさん)

○年金の削減、高齢者医療費の値上げ等、最近高齢者を取り巻く環境は益々厳しくなっている。もはや“敬老”と言う言葉は死語になってしまったのか？

(Iさん)

○クロスワードの問題を、自誌内で作成しておられる由、時事もからんで毎回お見事!!解答するほうも真剣勝負で楽しんでいます。

(Uさん)



中信・北信「ワーカーズコープかがやき担い手」募集

ワーカーズコープかがやき(長野市、松本市)では、日常生活での困りごとを支援する仕事を担っていただける方を募集しています。〈生活支援事業〉・仕事内容－草取り、剪定、雪かきなど

時給：800円を基本として、15分刻みで精算。

(松本地域については、松本市内の方を募集)

※ご希望の方は就労条件等ありますので、下記担当者までお問い合わせ下さい。

中信(松本市)0263-31-8200(風間)

北信(長野市)026-217-3601(根本)

かがやき
インフォメーション

“人”が育ち、仲間が増え、その力で 住みよい地域づくりを!!



編集会議での「仲間ふやし」の論議

9月中旬に開かれたこのニュースの編集会議で、高齢協がいま進めている「仲間ふやし」について論議がはずみました。その際、いわゆる「メリット論」、地域の方々から高齢協にはいつてどんなメリットがあるのかと問われた時、私達がどのように対応するかについて様々な意見が交わされました。その論議の流れの中で、鈴木専務や私が発言したことの要約を本号に載録することになりました。

メリットとは本来「価値」とか「真価」、「長所」などの意味ですが（広辞典）、近年損得の「得」の意味に多く使われる傾向があります。これは近頃の経済効率一辺倒の社会風潮による影響と考えることができます。高齢協にはいることによる「得」を期待された時どのように答えたらよいのでしょうか。また例えば、心身の障害をもち施設などに長期に入所している方が、「私は高齢協にはいつても何もできないので」と言われた時はどうお話をしたらよいのでしょうか。

改めて記すまでもなく高齢協は「ひとりぼっちにならない、しない」「元気な高齢者はもっと元気に、ひとと地域のお役に立とう」「高齢者が生き生きらせる社会」を目指し、それにむかって多くの人が力を寄せ合う組織です。この私たちの目指すことは現代では“かがやき”を放つことになると思うのです。高齢協の思いに共感し、仲間になってもらうことは高齢協の価値を共有することであり、その方の新しい人生観を育む第一歩になるものだと思います。すばらしいメリットであるはずです。活動に直接参加できなくとも、その方がそれまで有していなかった価値の発見で新たな宝物をもつことになり、組合員であること自体が社会的貢献につながります。

かつて私が厚生連で働いていた時、30年前に「実践保健大学」を多くの人びとの協力で立ち上げました。地域の方々に呼びかけて、健康づくり、地域づくりの種を蒔こうというものです。農閑期の10回講座です。先頃30周年をむかえました。

1983年、高齢者の医療費抑制を目的にした老人保健法がスタートし、高齢者の不安が広がりました。その時、からだが不自由になっても安心して住み続けられる地域をつくろう。昼間あずかりの介護施設（現在のデイサービスセンター）を中学校区単位につくろうと、病院の労働組合が事務局を担当し小諸市北佐久郡の一市四町二村でいっせいに大住民運動を始めました。この時保健大学の終了者の皆さんに、自分の人生のなかで地域のお役に立つことを一つでもいいからやろう、孫子に誇りをもって語れるような人生を歩もうと呼びかけました。住民運動の中心をどの市町村でも修了生たちが担いました。ここで際立ったことは、修了生の居住密度の高いところとそうでないところの運動の高まりに大きな差が生じたことでした。自分たちの目指すことが社会的に価値のある活動であることに一人ひとりが気づき、地域の中にドラマティックな変化がおき、運動は成果をあげました。これまで経験したことのないような新しい生き方を自分たちで見出していきました。高齢協運動もこの経験と似ていると思うのです。

地域の中で同じ思いを共有する人たちがともに学び合い、仲間を増やし、その力で住みよい地域をつくっていくという過程は、どのような社会的運動にも共通する原則のように思います。高齢協の仲間増やしは単に組合員の数的増加を目指すだけでなく、奥深い意味があります。私達の掲げる協同による住みよい社会の創造にむかって思いを共有し、とりわけ現今の社会状況のなかではまっとうな人間集団の裾野を広げていく役割をもつものだと思うのです。人がどのような生き方をするかはその人の自由です。ただ、願わくば、私たちの共感者がもっともっと広がるようになればと思うのです。そのために私たち一人ひとりが力を尽くすことが求められます。

（依田発夫）

